

## 1 事後評価の実施状況

作成日 令和6年8月23日

### (1) 地域再生計画の名称

「山・里・街の魅力あふれる豊かな地域づくり計画」

#### ア 指標の実績値の調査

計画年度終了後、指標の実績数値を把握するため下記担当課が調査を実施

(目標1) 年間間伐面積の拡大 420ha から 500ha に向上する。 … 林務課

(目標2) 観光入込客の増加 … 商業観光課、遠山郷観光振興室

・上村地区観光関連施設（しらびそ高原・下栗の里）126,000人から136,000人に増加を図る。

・年間登山客数（南アルプス・中央アルプス）5,900人から6,400人に増加を図る。

(目標3) アクセス改善（間伐材の製材工場への運搬時間の短縮） … 林務課

・林道松川入線 100分から90分に短縮する。

・林道川合線 140分から130分に短縮する。

(目標4) 体験プログラム利用者数 42,600人から45,000人に増加を図る。 … 商業観光課

(目標5) 林道保全（老朽化）対策推進率 0%から12%に向上する。 … 林務課

#### イ 事後評価調書の作成

・平成27年度から令和3年度を計画期間として策定し事業を実施してきた地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）「山・里・街の魅力あふれる豊かな地域づくり計画」が、林道千遠線の繰越、事故繰越を経て、令和5年度で事業が終了したことを受け、事後評価調書の作成及び事後評価委員会を開催した。

・事後評価調書については、飯田市松川入財産区、飯伊森林組合、地元まちづくり委員会、行政関係機関からなる地域再生計画事後評価委員会を開催し、当該地域再生計画における数値目標の達成状況や今後の方針について事後評価を行った（令和6年8月）。

ウ 地域再生計画事後評価委員会における評価検討

開催日	評 価 会 議		協 議 事 項	意 見 ・ 要 望 等
	関係者	行政関係		
令和6年 8月23日	<p>&lt;委員名簿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市松川入財産区 議長 小木曾 健宏 氏</li> <li>・飯伊森林組合 常務理事 吉澤 悦史 氏</li> <li>・上村まちづくり委員会 会長 前島 道広 氏</li> <li>・南信濃まちづくり委員会 会長 遠山 典男 氏</li> </ul>	<p>&lt;委員名簿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上村自治振興センター</li> <li>・南信濃自治振興センター</li> <li>・農業課</li> <li>・商業観光課</li> <li>・遠山郷観光振興室</li> </ul> <p>&lt;事務局名簿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林務課</li> <li>・土木課</li> <li>・企画課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標の達成状況について</li> <li>・内部評価について</li> <li>・今後の方針について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南信濃地区では地域外に通じる道が3ルートしかない。昭和40年の災害時には、全てのルートが閉ざされて孤立した。昨年6月の豪雨災害でも一時孤立した。今回の林道千遠線の整備は、災害対応として、非常に有用であり、評価できるものである。また、林道千遠線は60年前に計画された道で、計画目的の中に、林業と観光への活用が既に謳われていた。観光にも生かせる道であるため、地域としても取組を進めるが、行政としても引き続き支援をお願いしたい。</li> <li>・林道赤石線については、エコ登山客数の増加や日本百名山に認定されている山もあり、登山客数が増えている。これからの山岳観光に活用できるものとして有用と考える。</li> <li>・本計画は有効であったと評価するので、今後も活用できる事業があれば活用の検討をお願いしたい。</li> <li>・指標2の観光入込客については、新型コロナウイルス感染症等の要因で目標値に達していないことは事実だが、今回整備された市道の箇所は、県内外から訪れる様々な観光客、登山客が慣れない道で地元車両とすれ違う際に、特に心配されていた箇所である。効果は</li> </ul>

				<p>十分にあったと思う。観光客等の増加を見込んでいくためにも、今後もこのような整備事業が進んでいくことを地元は望んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業の間伐面積が目標値に至らなかったが、施業の方法が変わったためであり、自己評価のとおり、木材の搬出量は増えている。今後は木材を搬出することが林業の目標となる。面積だけではなく、搬出量も表記することが適切であると思う。</li> <li>・山に作業へ入る際に、時間だけ短くするのではなく、安全に通行できることが大切である。ぜひ引き続き改良事業を進めていただきたい。</li> <li>・松川入財産区としては、林道松川入線における、老朽化した橋の補修や改良工事が進んだことで、通行の安全が確保され、現地への時間短縮や森林整備の効率も向上した。</li> </ul>
--	--	--	--	--

**エ 事後評価調書の公表**

地域再生計画事後評価委員会で確認された事後評価調書を、飯田市ウェブサイトで公表する（令和6年9月）。

